

転職したり、パートから正社員になったりと働き方を変える女性が多い。どのような心構えで臨み、どんな点に注意すればいいのだろうか。(宮沢輝夫)

「このように働きたいのかを自分の中ではっきりさせ、転職活動をした。その結果、定年まで勤めたいと思える会社に出会えた」

10月からITコンサルティング会社「ARアドバンストテクノロジ」(東京都渋谷区)に勤める宮下由美子さん(39)は話す。6回目の転職先の同社で、マーケティング(市場調査)相談と広報を担当している。

宮下さんは入社前、同社が社内外の人を対象に開いている食事会に参加し、会社の雰囲気や勤務形態を知った。以前の仕事と違い、業務の時間管理が自立的に行えるなど、自分の望むものに近かった。「転職支援の代理人を使ったこともあるが、人任せになりがちだった。気持ちに正直に向き合うようにした」

総務省の労働力調査によると、2016年の転職者比率(就業者に占める転職者の割合)は、女性5・8%、男性4%。対前年比はともに0・1ポイント上昇だった。

転職などのキャリア支援講座を運営する「MYコンパス」(東京都中央区)社長、岩橋ひかり



転職、正社員への心構え

理想の働き方明確に

さんは「理想とする働き方や生活を明確にして転職活動をするのが大切。その基本が出来ていない人が意外と多い」と指摘する。

両立支援や在宅勤務制度など働きやすさや、社内ルールモデル(手本となる人)がいるかどうかも大切だが、中長期的に自分が何



岩橋さんは「理想とする働き方を明確にしよう」と呼びかける(東京都杉並区)

をしたいかを考えることが、満足できる仕事に就ける近道だという。

転職先には、待遇についての考えをはっきり伝える。また、家族にも意思表示は必要。介護の問題で転職や再就職を諦めている人も多いが、外部サービスの利用などを家族で相談すれば、可能性はあるという。

「転職のテクニックにおぼれたり、目の前の損得で決めたりしないで」と岩橋さん。

パートから正社員へと働き方を変えるケースも増えている。ただ、社会保険労務士で、「アイデム 人と仕事研究所」(東京都新宿区)所長の岸川宏さんは、即断せず、十分検討してから決めた方がいい」と指摘する。

川崎市のスーパードパート勤務する女性(45)は働きぶりが評価され、スーパー側から正社員への登用を提案されたが、最終的に断った。「賃金は安くて、パートの方が融通が利く」と話す。

岸川さんによると、会社側が定時退社などを提唱しても、直属の上司や同僚の理解が追いつかず、現場の



新しい職場で上司と談笑する宮下さん(中央)。「過去の転職活動の反省を踏まえて職探しをしました」(東京都渋谷区のARアドバンストテクノロジで)

人員も不足していることがある。正社員になっても残業せざるを得なくなり、パートにも戻れず、会社を辞めてしまう例もある。

「事前に会社側からしっかりと説明を受け、勤務内容を詰め、共通認識を持つことが大事。自身と会社、両方に利益となる関係を築けるかどうかのポイントです」と岸川さんは話す。